



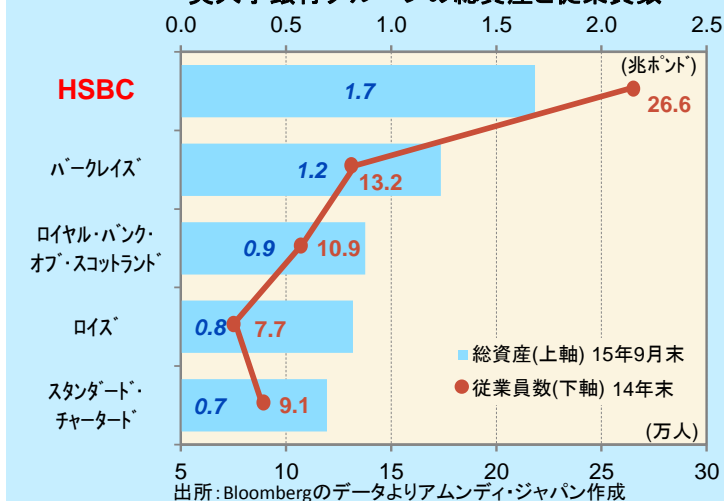
ズームイン英国 (マーケット情報版)

ロンドンの魅力を再認識

2月14日、英国の大手金融グループであるHSBCホールディングスが、本拠を引き続き英国に置くことを全会一致で決定しました。

HSBCホールディングスは、総資産、従業員数など、英国では最大の金融グループです。収益基盤の多くが香港、中国などアジアにあることから、本拠の香港への移転の可否は以前からの検討課題でした。今回の決定は、ロンドンの金融センターとしての高い魅力が健在であることを改めて評価したためと思われます。

英大手銀行グループの総資産と従業員数



通貨の信認向上につながる国際金融の高い地位

国際金融センターの地位については、いくつかの調査があります。ロンドン(英国)はおおむねニューヨーク(米国)に次ぐ地位にあります。ロンドンは、人材、市場構造、制度などの様々な面で、依然として高い評価を得ています。

◇最近の国際金融センターのランキング調査

時期	2014年	2013年	2012年
調査元	Z/Yenグループ	新華社/ダウ・ジョーンズ社	世界経済フォーラム
1	ニューヨーク	ニューヨーク	香港
2	ロンドン	ロンドン	アメリカ
3	香港	東京	イギリス
4	シンガポール	シンガポール	シンガポール
5	チューリッヒ	香港	オーストラリア
6	東京	上海	カナダ
7	ソウル	パリ	日本
8	ボストン	フランクフルト	スイス
9	ジェノバ	北京	オランダ
10	サンフランシスコ	シカゴ	スウェーデン

出所: 内閣府「国際金融センター、金融に関する現状等について」(2014.4.18よりアムンディ・ジャパン作成)

今回の決定は、減速を強める中国経済の現状や、香港に対する中国政府の影響拡大なども考慮されたといわれています。しかし、いずれにしてもHSBCホールディングスの英国本拠継続は、英国の市場としての魅力が総合的に評価されたことでもあり、英ポンドの信認向上につながると考えられます。

**英国の市場としての高い地位は、
英ポンド投資の妙味にもつながりそうですね！**



投資信託に係るリスクについて

投資信託は、値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元金を割り込むことがあります。したがって、元金が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、全て受益者に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、お申込みの際は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

投資信託に係る費用について

投資信託では、一般的に以下のような手数料がかかります。手数料率はファンドによって異なり、下記以外の手数料がかかること、または、一部の手数料がかからない場合もあるため、詳細は各ファンドの販売会社へお問い合わせいただくか、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

投資信託の購入時: 申込手数料

投資信託の換金時: 換金(解約)手数料、信託財産留保額

投資信託の保有時: 運用管理費用(信託報酬)、監査費用

運用管理費用(信託報酬)、監査費用は、信託財産の中から日々控除され、間接的に投資者の負担となります。間接的負担には、その他に有価証券売買時の売買委託手数料、外貨建資産の保管費用、信託財産における租税費用等が含まれます。また、他の投資信託へ投資する投資信託の場合には、当該投資信託において上記の費用がかかることがあります。

<ご注意>

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、お申込みの際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

【当資料のご利用にあたっての注意事項等】

当資料は、アムンディ・ジャパン株式会社(以下、弊社)が投資家の皆さまに情報提供を行う目的で作成したものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。当資料は法令に基づく開示資料ではありません。当資料の作成にあたり、弊社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に記載した弊社の見通し、予測、予想意見等(以下、見通し等)は、当資料作成日現在のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また当資料に記載した弊社の見通し等は将来の景気や株価等の動きを保証するものではありません。